

東レ(3402)



－ 第 1 四半期は会社計画を上回る順調なスタート －

東レが 5 日に発表した第 1 四半期（4-6 月期）の決算は、売上高が前年同期比 3.8%減収、営業利益が同 10.7%増益となりました。売上高はドル円の 13 円余りの円高による目減りもあって減収となりましたが、営業利益は情報通信材料・機器セクターの大幅な増益などから二桁の増益を確保して第 1 四半期として過去最高を更新しています。

通期の売上高は円高や原燃料安を考慮して下方修正されました。ドル円の想定レートは 105 円と据え置きとなりましたが、新興国通貨安を反映させ繊維、プラスチック・ケミカル、情報通信材料・機器、炭素繊維複合材料の売上高をそれぞれ引き下げ、トータルで 700 億円の下方修正となっています。

しかし、売上高の下方修正の理由が円高や原燃料安であることから営業利益の通期の見通しは据え置きとなっています。足元の主力事業は堅調で、この第 1 四半期の営業利益も会社計画を大きく上回って着地したとみられます。二桁増益での最高益更新に向けて順調なスタートを切ったといえそうです。

当社は、本書の内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想及び判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。当社は本書の内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。本書の内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。内容に関するご質問・ご照会等にはお応え致しかねますので、あらかじめご容赦ください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会:日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会